様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３４４２６
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：２５７８０２７８

研究課題名（和文）商店街のまちづくりにおける中小小売商業者のコーディネーション

研究課題名（英文）The Role of Small and Medium Retail Merchants on Machizukuri : Analytical Framework of the Coordination

研究代表者
角谷　嘉則（SUMIYA, YOSHINORI）

桃山学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：２０５１９５８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：商店街のまちづくりにおける中小小売商業者の役割をコーディネーションの視角から捉える点が最大の特徴である。その視角を用い、商店街のまちづくりにおける多様な主体間の連携について分析を進めた。主に事例研究を行ったのだが、対象をイベント「バル街」に絞り込んだ。「バル街」とは食べ歩き・飲み歩きのイベントであり、飲食店が増加傾向にある日本全国の商店街で広がりを見せている。調査では特徴的な開催地を訪問し、主催者とそのキーパーソンに対して聞き取り調査を行った。さらに、伊丹まちなかバル、函館西部地区バル街に焦点をあて、その開催経緯や開催後の発展段階を解明し、全国でバル街が広まった背景を明らかにしている。

研究成果の概要（英文）：The point of this study is the coordination of role of small and medium retail merchants on Machizukuri. Restaurants increased insidet of many shopping center districts in Japan. And the events "BAR-GAI" increased at the same time. I visited Hakodate-city and Itami-city, I clarified a development stage from field studys.I investigated an event and clarified held process and development stage. And I clarified the reason why an event spread through in Kinki.

研究分野：社会科学

キーワード：まちづくり　商店街　バル街

１．研究開始当初の背景

日本の小売業は、1982 年の商業統計以降、事業所数が減少し続けており、特に中小零細の店舗が減少している(経済産業省 2009)。その間、商業政策は経済的調整から社会的調整へと軌道修正したが、売場面積は大規模小売店舗の数と共に増加し、郊外で開発が進んだことから、中心市街地と郊外の商業集積間競争とも捉えられた(宇野 1998、石原 2000、加藤 2010)。この現象は、欧米諸国も共通に見られ、タウンマネジメント、建築規制、土地利用規制などが実施されている(保井 1998、原田 1999、南方 2009、佐々木 2011)。しかし、中心市街地の商業活動が回復した例は少なく、中心市街地活性化事業だけでは解決できない郊外化や都市の人口減少など新たな問題も示されたのである(江口・金澤 2001、矢作・小泉 2005、Bennison・Warnaby・Pal2010)。中小零細の小売店舗の減少は、地域における中小小売商業者の機能の低下に結びつくことが懸念される。

中小小売商業者の機能は、流通機構における小売(経済的側面)、地域社会における主体(地域的側面)に大別できる。経済的側面は、毛細血管をはりめぐらすように生産者と消費者を架橋する機能を担っている点にある(保田 1988、番場 2003)。中小小売商業者は個々に独立しているが、商店街やショッピングセンターなど商業集積としても品揃えとサービスを形成し、組織形成を通じて事業を行うような社会性を担っている。地域的側面は、中小小売商業者が個々に、商店街組織としても、福祉・環境・都市再開発・自治(祭事を含む)など、まちづくりを行うような社会性を担っている点にある(石原 2006、拙著 2007、出家 2008)。中小小売商業者は職住一致で生業性が高く、家族従業が主であることから、地域社会とも必然的に密接で不可分な存在であり(石井 1996)、地域のなかで活動に参加することが必然となっている者も多数存在しているからである。

一方、商店街のまちづくりは、経済的側面と地域的側面を一体として捉えた分析が進められてきた。なかでも、石原・石井(1992)はエポック的な存在であり、商業集積が革新するためのライフサイクルなど、商店街および商店街組織において発展段階ごとの要因や固有な特徴を示した。しかし、石原・石井(1992)には多くの課題が指摘されており、公共政策や外部諸機関の重要性を指摘しながら、商店街組織と多様な主体との連携を分析してこなかった点を拙著(2008a、2009b)でも批判的に検討した。拙著は、商業集積としての商店街の発展が商店街組織の主導による場合だけでないことを示し、商店街組織と多様な主体との連携では事業ごとに主従関係が異なり、商店街組織が従属的に必要不可欠なサポートを行うケースの存在を示した。その後、福田(2009)は商店街組織と外部の中間支援組織との連携を分析し、商店街組織に内的変化を促す働きを発見した。このように商店街のまちづくりは多様な主体間の連携の視点からも事例分析が進んできた。商店街のまちづくりにおける多様な主体間の連携の視点は、新たな分析視角や分析手法の開発の必要性が高いものの停滞傾向にあった。そこで、中小小売商業者の役割として注目されてこなかった機能の存在を指摘し、新たな分析の視角と方法を提示しようと試みた研究である。

ただし、商店街のまちづくりにおける多様な主体間の連携の視点は、新たな分析視角や分析手法の開発の必要性が高いものの停滞傾向にあった。拙著(2011b)は、中小小売商業者の役割として注目されてこなかった機能の存在を指摘し、新たな分析の視角と方法を提示しようと模索した。多様な主体が関わる商店街のまちづくりで中小小売商業者の役割を分析するには、安井(1999)、土居(2002、2011)、加藤(2006)など実務家のリーダー論や、三隅(1986)、田尾(1993)、金井(2005)などフォロワーへの作用を解明するリーダーシップ論だけでは不十分であり、そこで、「コーディネーション」の概念から新たな着想を得ようとしたのである。早瀬・筒井(2009)は、コーディネーションを「1)モノ・サービスをよりよく組み合わせるはたらき、2)役割や特徴を調整して全体の調和をつくるはたらき、3)人々の間につながりを生み出すはたらき、4)異質な存在の間に対等な関係を創り出すはたらき、5)活動や組織への参加・参画を促すはたらき、6)組織やセクター間の協働を実現するはたらき、7)異なる取り組みをつなぎ、総合力や新たな解決力を生み出すはたらき」の 7 つの機能に整理している。これは地域活動やボランティアを対象としたものだが、解決が困難な現状の問題に対して新たな解決策を生み出す話しあいを持つべく、対等な関係を構築できるような機能の必要性を提示している点など、商業論に摂取して定義を再考したいと考えた。

２．研究の目的

商店街のまちづくりは多様な主体が連携している。そこで、本研究では多様な主体が連携して事業を進める時の中小小売商業者の役割に焦点を絞って分析していく。その鍵となる分析視角が中小小売商業者によるコーディネーションである。まず、広範な分野との比較検討を通じて、商業論におけるコーディネーションの定義を精緻化す

る。その後、商店街のまちづくりに関わる計画過程や運営段階において中小小売商業者によるコーディネーションが発露した結果を類型化し、その要因との因果関係を明らかにしていく。結果として、商店街のまちづくりにおける中小小売商業者のコーディネーションの手順や前提条件を解明することである。

３．研究の方法

本計画は、3 年間の研究期間を想定し、事例研究をベースとした実証的な研究を行っていく。まず、中小小売商業者のコーディネーションの定義を精緻化するため、コーパスを用いつつ、広範な分野との比較検討を行う。次に、事例研究ではコーディネーションの視角から商店街のまちづくりに関わる文献を再整理し、並行する訪問調査でまちづくりの計画過程や運営段階について詳細を聞き取り、中小小売商業者によるコーディネーションが発露した結果を類型化する。その後、事例研究から仮説を導出し、訪問調査先からノウハウの提供を受けた商店街へのアンケート調査(商店街組織および会員)を行うことで、コーディネーションと個人や組織・多様な問題・解決方法・場(機会)など要因との因果関係を明らかにする。最終的には、商店街のまちづくりにおける中小小売商業者のコーディネーションの手順や前提条件についても論文としてまとめる。

４．研究成果

全国の商店街では小売店が減少し、飲食店が増加する傾向にあった。本稿が明らかにしたのは、全国と同様の傾向にある伊丹市の商店街が、伊丹まちなかバルの開催によって商店街組織に変化をもたらした点である。伊丹郷町商業会では、バル街の開催後に飲食店の会員が増加し、役員構成が若手中心に刷新され、飲食店が企画開催するイベント伊丹郷町屋台村も生まれた。それは、伊丹まちなかバル第 1 回の開催時に参加店の約 75%が通常営業の売上を上回り、約 47%が開催日以降も新規来客数の増加につながったからである。第 2 回以降の回答でも、正の効果が負の効果を上回っている。その結果、認定中心市街地活性化基本計画では、目標「歩行者・自転車通行量」を増加(2006 年度と 2012 年度の比較)させるなど効果があったと総括した。いっぽう、目標「空き店舗数」が悪化したように、伊丹郷町商業会をはじめ中心市街地の小売店が売上を伸ばす効果は確認できない。今後、西宮市や堺市のバル街のように小売店も参加する仕組みへ移行すれば効果を期待できるだろう。

次に、伊丹まちなかバルの開催過程では、キーパーソンによるコーディネーションが多様な主体を連携させ、事業を持続的に拡大させた点を明らかにした。近畿圏を中心にバル街を広めた役割など、外部への影響も併せて指摘している。特に重要なのは、綾野と荒木が他のキーパーソンの所属機関の裁量や個々の裁量を事前に把握していたからこそ、コーディネートできた点である。つまり、コーディネーションの前提条件には、異なった二つの裁量を把握することが含まれる。

そして、従来のまちづくり研究において看過されてきた、まちづくりイベントの開催過程や拡散過程でキーパーソンが果たした役割と機能を、コーディネーションの視点から分析したものである。具体的には以下の成果を得ることができた。

まず、伊丹市中心市街地活性化協議会がバル街の開催を検討して実施計画をまとめる段階に着目し、専門家を用いて函館市の BĀR-GĀI の情報を入手しつつ、キーパーソンの紹介を通じて必要な仕組みを取り入れ、同時に地域性も生かしながら独自のイベントとして確立していった過程を明らかにすることができた。

また、函館市の BĀR-GĀI と伊丹まちなかバルにおける他地域とのつながり方の違いがもたらした影響も明らかにできた。すなわち、両者は他地域と対等な関係を構築してきたといえるが、函館市の BĀR-GĀI は他地域への情報提供に加えて相互に出張出店を行うなど、地域間での連携を重視した。一方、伊丹まちなかバルは BĀR-GĀI との連携によって得た情報を基に修正を加え、近畿バルサミットに代表される情報提供と情報発信、情報交流を行う場をつくったことから、近畿圏でバル街を急速に拡大させる結果を生んだ。それを可能にしたのは、近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会でのつながりであった。

理論研究から先行研究を批判しつつ、モデルを構築した。事例研究は、イベント「バル街」に絞り込み、全国の特徴的な開催地を訪問し、キーパーソンに対する聞き取り調査を行った。さらに、伊丹まちなかバル、函館西部地区バル街に焦点をあて、その開催経緯や開催後の発展段階をコーディネーションの視点から解明した。そして、商店街のまちづくりにおける中小小売商業者の役割としてのコーディネーションを定義し、そのプロセスを解明した。

裁量 ⇒ 働きかけ(解決策) ⇒ つながり(対等な関係)

- ・意思
- ・組織的

- ・組織内
- ・組織間

- ・場（情報提供・情報共有）
- ・連携

図. コーディネーション概念とその過程　出所：筆者作成

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 金昌柱・角谷嘉則・姜 尚民・吉田創、地域コミュニティにおける中小小売企業の基盤、立命館大学経営学会『立命館経営学』、査読無、54(2)、2015年９月、pp.67-85

② 角谷嘉則、商店街におけるコーディネーションの分析－飲食店の増加とバル街による変化－、日本流通学会『流通』、査読有・研究ノート、No.36、2015年６月、pp.31-45

③ 金昌柱・白貞壬・角谷嘉則、小売ミックスからみた中小小売企業の戦略ポジショニングの課題、立命館大学経営学会『立命館経営学』、査読無、54(1) 、2015年５月、pp.47-63

〔学会発表〕（計６件）

① 角谷嘉則、商店街の業種構成の変化とイベントの広がり—バル街におけるコーディネーション—、日本流通学会、全国大会@北海道大学、2015年10月
② 角谷嘉則、商店街の業種構成の変化とイベントの広がり—バル街におけるコーディネーション—、日本流通学会、関西中四国部会@キャンパスプラザ京都、2015年９月
③ 角谷嘉則、商店街におけるコーディネーションの分析～バル街を例として～、日本商業学会、全国研究大会@一橋大学2014年６月
④ 角谷嘉則、中心市街地活性化におけるコーディネーションの分析－近畿圏におけるバル街の展開過程－、日本流通学会、全国大会@関東学院大学、2013年10月
⑤ 角谷嘉則、中心市街地の問題と今後－中心市街地活性化法制から－、経済地理学会、関西部会@大阪市立大学、2013年６月
⑥ 角谷嘉則、中心市街地活性化におけるコーディネーション～バル街を事例として、日本流通学会、関西中四国部会@関西大学、2013年６月

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

○取得状況（計　　件）

〔その他〕
ホームページ等
http://yoshis5.wix.com/sumiya

６．研究組織

(1)研究代表者
角谷嘉則　（SUMIYA, Yoshinori）
桃山学院大学・経済学部・准教授
研究者番号：２０５１９５８２

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：